

目的・
目標

バレエの殿堂であるロンドンのロイヤル・オペラ・ハウスで、新国立劇場舞踊芸術監督・吉田都の演出による「ジゼル」を上演する。世界トップレベルの劇場での上演経験を通して新国立劇場バレエ団ダンサーの育成を行うことで、国際的競争力を持つダンサーを育て、日本のバレエの国際的プレゼンスの向上を図る。

概要

新国立劇場バレエダンサーを対象とし、吉田都芸術監督をはじめとした指導者陣による育成プログラムを実施。新国立劇場初の海外自主公演であるロイヤル・オペラ・ハウスでの上演およびその前後の国内公演を通して世界に比肩し得るダンサーを育成する。同時に、海外での広報活動や公演の記録映像を使ったプロモーションを展開する。

(分野・ジャンル)

舞台芸術(舞踊)

(渡航先の国・地域)

・ロンドン(英国)(2025年)

(国内外の連携・協力体制)

・ロイヤル・オペラ・ハウス、
Bolton&Quinn、AKA他

3年目までの取組

1年目はロイヤル・オペラ・ハウスとの連携を深め、プロジェクトの基礎を固めるとともに、ロンドン公演に向けた実践的なリハーサルを開始する。2年目は4月に新国立劇場公演、7月にロンドン公演を実施する。ここで得られたフィードバックを基にダンサーのトレーニングプロセスを見直し、より育成効果の高い方法を模索する。3年目には国内で凱旋公演を行い、ロンドン公演の成果を国内へ還元する。



5年目までの取組



3年目までの取り組みの次のステップとして、再度の海外公演を検討する。全幕物だけでなく、小規模なプロダクションでの海外公演や、フェスティバルへの参加なども含めて、ダンサーが海外での経験を重ねて国際水準の技術と表現力をさらに高めることを目指す。同時に、日本のバレエの国際的認知度を向上させ、国際プレゼンスの強化を図る。

中核となるクリエイターやアドバイザー

・吉田都

新国立劇場舞踊芸術監督。1995年より2010年まで英国ロイヤルバレエにて最高位プリンシパルとして活躍。04年よりユネスコ平和芸術家、12年より国連UNHCR協会国連難民親善アーティスト。07年大英帝国勲章(OBE)受賞、17年文化功労者、24年日本芸術院会員。



育成対象者：70人

新国立劇場バレエ団ダンサー他約70名を育成対象とする。国内トップクラスのダンサーを海外公演を通してさらに育成することによってそれぞれの国際的競争力を高める。

成果目標(見込)

目標値

企画段階から海外公演等々に登用される若手クリエイター等の数	70人
国内外の団体・企業等との連携数 (連携団体数、事業提携数、拠点形成数など)	3件
プロジェクトに関わった海外アーティスト・キュレーター等の数	3人
国内外で展開される公演・展示等の数	14回
国内外で展開される公演・展示等の入場者数	20,608人

【補足資料】

